

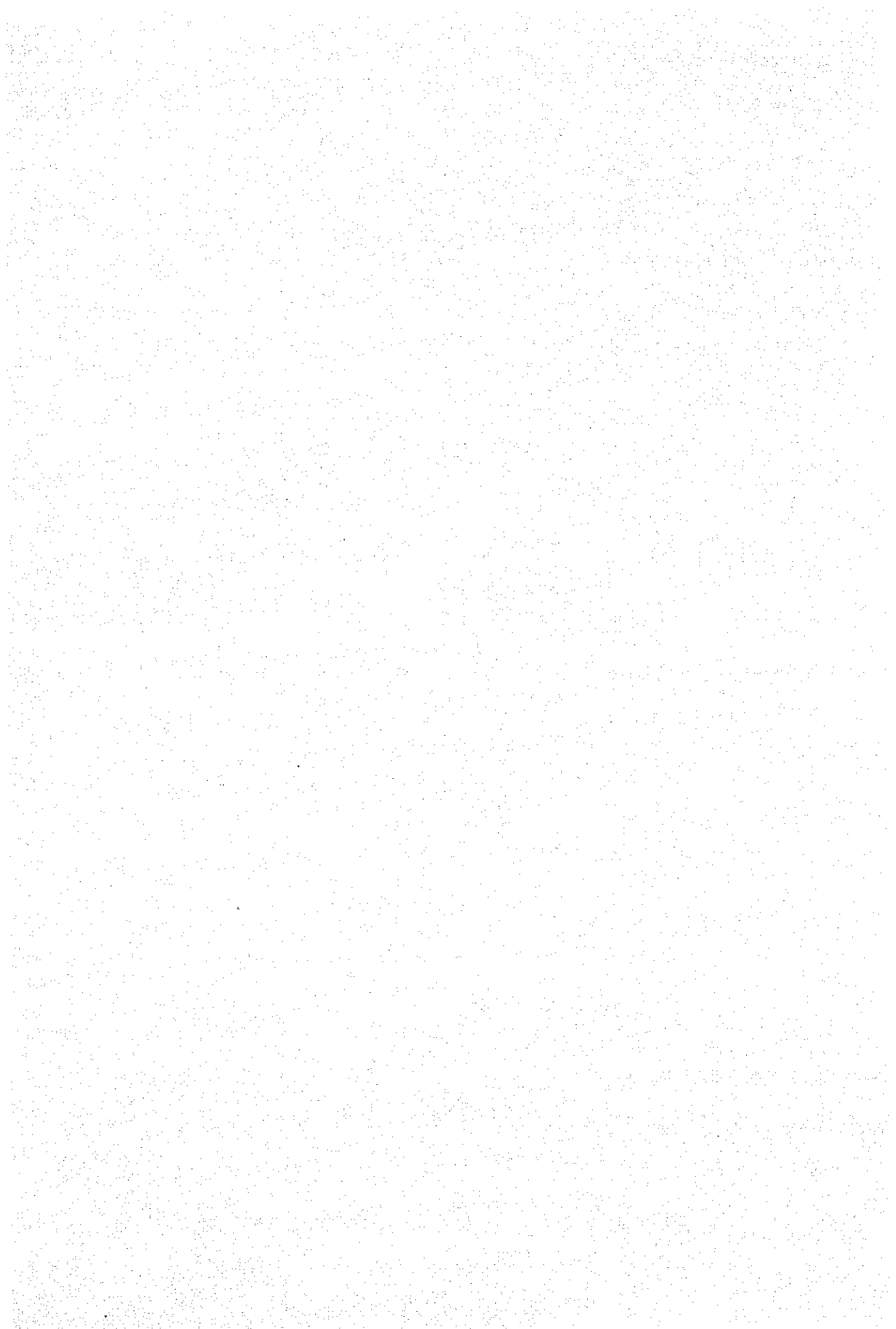
マレーシア国
アセアン家禽病研究訓練計画
巡回指導調査団報告書

平成元年2月

国際協力事業団

農開畜
JR
89-12

ARY



マレーシア国
アセアン家禽病研究訓練計画
巡回指導調査団報告書

JICA LIBRARY



1072798[0]

18785

平成元年2月

国際協力事業団

国際協力事業団

18785

まえがき

国際協力事業団は昭和61年4月17日から5年間にわたり、アセアン諸国における家禽病の研究及び人材養成を目的として、プロジェクト方式技術協力による「マレーシア国アセアン家畜病研究訓練計画」を実施している。

このたび、当事業団は昭和63年3月14日～3月25日まで農林水産省家畜衛生試験場研究第一部長 國安主税氏を団長とする同計画巡回指導調査団を派遣した。

本調査団はプロジェクトの実施状況を把握し運営上並びに技術上の問題点につき、必要な指導、助言を行うとともに、今後の技術協力計画についてマレーシア政府関係者と協議を行った。

この報告書は、これらの調査結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクト推進に当たり、参考資料として活用されることを願うものである。

最後に、今回調査の任に当たられた國安団長以下団員各位及び現地においてご協力頂いたマレーシア政府関係者各位、在マレーシア日本国大使館並びに我が国関係者各位に厚く御礼を申し上げます。

平成元年2月

農業開発協力部長

宮本和美

目 次

1. 巡回指導調査団派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	3
1-4 主要面談者	4
2. 調査結果の要約	5
3. プロジェクト実施上の諸問題	7
3-1 プロジェクト運営に関する諸問題	7
3-2 研究訓練活動の進捗状況, 課題及び今後の計画	7
4. 合同委員会の協議事項	12
4-1 経 緯	12
4-2 概 要	12
附属資料	
1. 第2回合同委員会議事録	17
The Minutes of the Second Joint-Committee Meeting for the ASEAN Poultry Disease Research and Training Project	
2. アセアン家禽病研究訓練センター機構図 (1988.3. 現在)	32
3. 第一回アセアン家禽病セミナー (ASEAN Seminar on Poultry Diseases and their Control) 関係資料	35
3-1 プログラム	35
3-2 参加者リスト	43
3-3 セミナー参加者によるセミナーの評価	47

1. 巡回指導調査団派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

アセアン諸国では近年、安価な飼料の普及により都市郊外を中心に家禽産業の規模が目覚ましく拡大した。一方、適正を欠く飼養管理や伝染病疾病等の発生とそれに対する予防、治療の不備等により相当の損失が生じている。

この為、1982年の日本・アセアンフォーラムの場において、アセアン諸国共通の問題として、家禽病の研究訓練に関し、我が国に協力要請がなされた。1984年11月、我が国はコンタクトミッションを派遣し、要請内容の確認を行った。

1985年2月、ブルネイにおけるアセアン食糧農業委員会(COFAF)畜産部会において、本件計画をマレーシアを宿主国とするアセアンプロジェクトとして位置づけることが再確認され、同年5月、マレーシア政府から「アセアン家禽病研究・訓練センター」の設立に必要な施設建設、資機材供与にかかる無償資金協力の正式要請がなされた。

又、同年7月、プロジェクト方式技術協力及び無償資金協力にかかる事前調査団がマレーシアに派遣され第三国研修を含むプロジェクト方式技術協力(以下「プロ技協」と略す)の基本的枠組をマレーシア政府関係者と協議した。同調査団の報告を踏まえて、さらに長期調査員2名が同年10月から1.5か月間アセアン諸国へ派遣され、アセアン諸国の家禽産業および家禽衛生の実情を調査した。

同年11月には無償資金協力にかかる基本設計調査団及び、第三国研修計画にかかる事前調査団がマレーシアに派遣された。

1986年4月、これらの調査、協議結果に基づきプロ技協の実施協議調査団が派遣され、プロジェクトの実施に関しマレーシア及びアセアン側関係者と協議を行い、同月17日、調査団長の国際協力事業団山極榮司理事とマレーシア側農業省次官Dato Alwi Bin Jantanとの間で討議々事録(Record of Discussions;R/D)の又、同団長と獣医局次長Dr. Ahmad Mustaffaとの間で暫定実施計画(Tentative Implementation Programme;)の署名が交わされた。その後、昭和62年度には3名の長期専門家が派遣されプロジェクトの活動がスタートした。

一方、協力の拠点となるアセアン家禽病研究訓練センターの無償資金協力による建設については、1986年9月に第1期工事(研究棟及び宿舍建設)のE/Nが交換され、1988年1月竣工式がおこなわれ、同年3月現在各種機材が搬入されて整備が進んでいる。第2期工事(SPFおよび実験鶏舎の建設)は同年7月、竣工を目標に順調に進んでいる。また、同年3月にはアセアン諸国から研修生を招いて第1回アセアン家禽病セミナー(第三国研修)が開催される。

今回、巡回指導調査団は署名されたTIPに沿ってプロジェクトの進捗状況を評価・検討し、技術

上及び運営上の問題点を現地の関係者と協議する為に派遣された。プロジェクトの年次実施計画、専門家派遣計画、機材供与計画、研修員受入れ計画、ローカルコスト負担事業計画に関し、マスタープランの目標を踏まえてTIPの枠内で検討した。調査、検討結果はマレイシア側との合同会議のミニッツとして残すこととした。

1-2 調査団の構成

氏 名	担 当	所 属 先
國 安 主 税	団長・総括	農林水産省家畜衛生試験場研究第一部長
今 井 邦 彦	鶏舎・運営管理	農林水産省家畜衛生試験場鶏病支場 第三研究室研究員
関 谷 順 一	疫 学	農林水産省畜産局衛生課係長
石 井 羊 次 郎	業務調整	国際協力事業団農業開発協力部畜産開発課

1-3 調査日程

日順	月日	曜日	移動および業務内容
第1日	3月14日	月	AM 東京発 (J L 721) PM クアラルンプール着
第2日	15日	火	AM 獣医局長表敬, 獣医局関係者と日程打合せ, J I C A事務所打合せ, 日本大使館表敬, クアラルン プール発 PM イポー着 (MH126), 第3国研修視察, 専門家と の打合せ
第3日	16日	水	AM 国立獣医学研究所 (V R I) 所長と打合せ, 第3 国研修視察 PM 第3国研修総合討論会参加, 無償資金協力第2期 工事 (S P F, 実験鶏舎) 建設状況視察, 第三国 研修及び調査団歓迎会
第4日	17日	木	AM 専門家との打合せ PM 第3国研修参加, 講演 (國安), 専門家との打合 せ
第5日	18日	金	AM VRI内ワーキンググループとの協議 PM "
第6日	19日	土	AM VRI内ワーキンググループとの協議 PM 資料整理
第7日	20日	日	AM 資料整理 PM "
第8日	21日	月	AM VRI及びセンターの施設視察 PM イポー発 (MH161)クアラルンプール着, J I C A事務所と調査結果の協議
第9日	22日	火	AM 合同委員会資料作成, 専門家との打合せ PM "
第10日	23日	水	AM 合同委員会 PM 獣医局長主催昼食会, 議事録作成, 署名, 調査団 主催夕食会
第11日	24日	木	AM 資料整理 PM J I C A事務所報告, クアラルンプール発 (J L 722)
第12日	25日	金	AM 東京着

1-4 主要面談者

(1) 農業省 (Ministry of Agriculture)

Datuk T. Puvanarajah 次官補 (Deputy Secretary General)

畜産局 (Department of Veterinary Services)

Dr. Ahmod Mustaffa bin Haji 局長 (Director General)

Babijee

Dr. Nik Muhamad 副局長 (Deputy Director General)

Dato Kardin bin Shukor 家畜衛生担当局長補佐 (Assistant Director General)

Mr. Yahya bin Muhamad 国際課研究官 (Research Officer, International Unit)

国立獣医研究所 (Veterinary Research Institute)

Dr. Abdul Rahman bin Mhd. Sallah 所長 (Director)

Sallah

Dr. P.G. Joseph 副所長 (Deputy Director)

Mr. Christopher Rajamanickam 寄生虫部長 (Head of Parasitology Division)

Mr. Lo Hann Seang ウイルスワクチン部長 (Head of Viral Vaccines Division)

Mr. Lim Kean Teik 家禽ウイルス部長 (Head of Avian Virology Division)

Dr. Lo Howin Seang 家畜ワクチン製造部長 (Head of Poultry Vaccine Production Division)

Dr. P. Loganathan 病理部長 (Head of Pathology Division)

アセアン家禽病研究訓練センター (Asean Poultry Disease Research and Training Centre)

Dr. Gan Chee Hiong マレーシア側プロジェクトコーディネーター (APDRT Malaysian Project-Coodinator)

Dr. Chai Kim Kheong ウイルス学分野カウンターパート (Counterpart, Virology Section)

Dr. Mahani binti Abd. Hamid 病理学分野カウンターパート (Counterpart, Pathology Section)

Dr. Rahmat bin S.M. Sheriff 寄生虫学分野カウンターパート (Counterpart, Parasitology Section)

- Dr. Aziz Jamaluddin 疫学分野カウンターパート
(Counterpart, Epidemiology Section)
- Mr. Yap Hon Choong 電子顕微鏡技師 (Senior technician, Electron
micrography)
- (2) 経済企画局 (Economic Planning Unit, Prime Minister's Department)
Mrs. Wan Norma Wan Daud 局長補佐 (Assistant Director)
- (3) マレーシア農科大学 (University Pertanian Malaysia)
Dr. A. Latif Ibrahim 獣医学部教授 (Professor, Veterinary Department)
- (4) 日本大使館
橋本 宏 公使
後藤 健 二等書記官
- (5) JICAマレーシア事務所
松崎 孝雄 所長
林 典伸 次長
- (6) 派遣専門家
勝屋 茂實 チームリーダー兼家禽病理学
坂田 雅哉 家禽ウイルス学
小林 勝 病理学 (電子顕微鏡操作)
草野 孝久 業務調整員
- (7) その他
吉田 啓一 現代建築研究所現地駐在員

2. 調査結果の要約

2-1 本調査団は昭和63年3月14日から25日まで「マレーシア国アセアン家禽病研究訓練計画」の進捗状況を調査するとともに、同プロジェクトの今後の方針についてマレーシア側および現地日本人関係者と協議し、協議結果については合同委員会の議事録として日・マ双方の代表者が署名を行った。又、同時期に第3国研修事業である第1回アセアン家禽病セミナーが開催されたため、同セミナーの講師として派遣された農林水産省家畜衛生試験場川村齊鶏病支場長とともに第3国研修に関する調査、検討を併せて行った。

- 2-2 センターの諸施設が完成間もないか（研究訓練棟、宿舎は1月に竣工）又は建設中（SPF鶏舎、実験舎等は7月竣工予定）であり、プロジェクト全体としてはこれから本格的活動が実施される段階であり、マレーシア側の運営体制についても未整備な点も見られた。殊にカウンターパート（以下「C/P」と略す）については、Dr. Gan Chee Hiong（マ側プロジェクトコーディネーター）以外は全員経験が浅く、日本での研修等も含め研究員クラスのカウンターパートを自発的に研究が行えるレベルに育成していくことが必要と思われた。
- 2-3 各研究分野の進捗状況についてはウイルス学および病理学に関しては長期専門家が派遣されているため、他の分野に比べ順調に研究体制が確立されてきている。細菌学分野については、2名のC/Pを研修員として受け入れた他、長期専門家を派遣し伝染性コリザを中心に技術移転を行ったが、C/Pの研究活動は未だ充分に行われているとはいえない。寄生虫学分野については、C/P1名（助手レベル）を研修受入れ実施しているが、研究室整備は他に比べ遅れている。疫学分野については、短期専門家が1名派遣されて野外調査の技術指導を行った。今後は調査結果の情報収集分析の技術移転を行うほか、他の分野との密接な連携体制を確立させる必要がある。
- 2-4 SPF鶏舎および実験鶏舎は、1988年7月完成予定で建設工事が振行している。これらの施設の運営管理についてはマレーシア国内では初めての経験なのでSPF鶏の飼育管理法、飼料の原料の入手ルートの確保、製造加工技術、アイソレーター等の設備の操作法等の技術の確立、人員の配置、SPF鶏卵導入ルートの確保等について1988年9月のSPF鶏卵導入までに解決しておく必要がある。
- 2-5 第3国研修については、3月8日から第1回アセアン家禽病セミナーが開始され、アセアン諸国から家禽衛生に携わる中堅クラスの研究員、行政官25名（マレーシア14名、マレーシア以外11名）が参加し、各国の家禽病対策の実情、最新の家禽病関連情報の発表のほかイポー近郊の養鶏場の視察等が行われた。日本からは川村齊農林水産省家畜衛生試験場鶏病支場長が講師として派遣され、日本における家禽疾病対策の実情を報告した。初回ということもあり準備・調整不足の面もあったようだ。
- 2-6 3月23日に開催された合同委員会では、プロジェクトおよびセンター建設工事の進捗状況が報告された他、プロジェクトサイトで行われた運営委員会（Steering Committee）の見解として提出された長期専門家の一名増を含む暫定実施計画の修正案が承認された。

3. プロジェクト実施上の諸問題

3-1 プロジェクト運営に関する諸問題

第一期工事のセンタービル本館、宿泊施設および研修棟が予定どおり1988年1月に完成し、研究室関係の移転が終了した。現在は移転後の器具機械の設置、調整等が行われ、研修業務の開始にはまだいたっていない。しかし、3月6日から3月17日まで新設の研修棟において第一回の第三国研修に係るアセアン家禽セミナーが開催された。

今回の調査で感じた運営面の問題点は下記のようなものである。

- 1) プロジェクト運営に関する日・マ間の調整が必ずしも十分に行われていない。
- 2) マ側に当事者意識が低く、日本側にリーダーシップを委ねる傾向が強く、このこともあって、日本側専門家の間でマ側C/Pの勤務態度等に不満を持つものもあった。
- 3) センターの運営についてワーキング・グループ、ステアリング・コミッティ会合を行っているが、今後さらに頻繁に開催し、その意向を十分反映すべきである。

3-2 研究訓練活動の進捗状況、課題及び今後の計画

3-2-1 ウイルス学分野

(1) 研究の進捗状況

1987年2～3月に鶏病支場から湯浅技官が短期専門家として2か月間派遣され、炭酸ガスふ卵器を用いないトリ腎細胞培養の技術を紹介した。また、日本から持参した抗原を用いてマレーシアで初めて鶏伝染性貧血因子および鶏細網内皮症ウイルス抗体の調査を実施し、これらの疾病がマレーシアにも存在することを確認した。

昭和62年3月から長期専門家として坂田氏が1年間滞在し、湯浅専門家の仕事を継承し、主な鶏疾病に関与するウイルス株の保存、診断用抗原の調製を行った。現在までに13種19株の整理保存がなされ、鶏病診断のためにゲル内沈降反应用8種、赤血球凝集抑制反应用2種および酸素抗体反应用7種の抗原が調製された(表-1)。これら業務の過程で、種々のウイルスの培養とウイルス量の測定方法、各種細胞の培養方法、ウイルスの濃縮と精製方法、ウイルスの凍結乾燥方法、各種血清学診断方法などのウイルス学の最新の基本的な方法が紹介された。また、鶏脳脊髄炎ウイルスのゲル内沈降反应用寒天培地の改良、マレーシアにおけるニューカッスル病ウイルス性状の検討、鶏伝染性フアブリキウス囊病ウイルスの分離と性状検査、各種鶏病ウイルスの酸素抗体法の検討、などの研究がなされた。

昭和62年3月～9月の6か月間マレーシア側のC/P Dr.Chaiに対して鶏病支場等において鶏痘、酸素抗体法、トリ腎細胞培養法等について研修を行った。

(2) 課題

- 1) ウイルス株および抗血清について足りないものを早急に準備する。
- 2) これらの株および血清類は凍結乾燥保存する。
- 3) 凍結乾燥機の運転技術を移転する。
- 4) マレーシア側に対する技術移転が充分になされていない。マレーシア側スタッフの能力、性格等のため困難な面もあるが、第三国研修が開始されるとマレーシア側が主体となって研修を運営することになるので早急に対応策を講ずる必要がある。

(3) 今後の計画

- 1) マレーシア側の要望として鶏病各種ウイルスをもちいたELISA手法の確立、抗原の調製法、術式の確立、があげられている。
- 2) 日本からは昭和63年4月と7月に長期専門家として2名のウイルス専門家の派遣が予定されている。今回、マレーシア側と協議を行い4月派遣の専門家はELISA手法を中心に、また、7月派遣の専門家はウイルスの分離法と同定法を中心に技術移転を行うこととした。

3-2-2 細菌学分野

(1) 研究の進捗状況

昭和62年2月～7月にマレーシア側研究官C/P Ms. Zainiが鶏病支場等で鶏の細菌性疾病について研修を受けて帰国した。

昭和62年7月～9月の3か月間、短期専門家として鶏病支場から野々村技官が派遣され、鶏伝染性コリーザについての研究をおこない、マレーシアで初めてその病原体分離に成功し、赤血球凝集反応および赤血球凝集抑制反応等の技術を導入し、抗体調査を行った。これらの技術はマレーシア側C/P Ms. Zainiに伝達された。しかしこのC/Pは病体などのため業務に充分従事できず、その後の研究の進展はない。昭和62年9月～12月に実験助手C/P Ms. Sitiが日本で細菌分離・同定法等を研修して帰国した。研究官C/Pの職場復帰を待つて本格的な研究業務が開始される予定である。

(2) 課題

- 1) 細菌学分野はマレーシア側のC/P等の対応が遅れ、また、日本側としてもこれまでに短期専門家の1名が派遣されたのみで、その研究、技術伝達は遅れている。
- 2) 鶏病に関与する各種細菌の参照株および抗血清の系統的な保存を行う必要がある。

(3) 今後の計画

- 1) マレーシア側は伝染性コリーザについての研究を継続し、できればワクチンの開発利用まで進めるために7月に短期専門家の派遣を希望している。
- 2) 伝染性コリーザに次いで鶏マイコプラズマ病、サルモネラ症等の研究が計画されており、技術伝達のための専門家の派遣が要望されている。

3) 細菌学分野の強化の為に、さらにもう1名の研究官C/Pが配属される予定である。

3-2-3 病理学分野

(1) 研究の進捗状況

昭和61年10月から長期専門家として派遣されている勝屋リーダーにより病理組織標本の作成方法、観察法等病理学の基礎的な技術移転がなされてきたが、研究官C/Pの配置の遅延、同C/Pの病理学分野での経験不足により現在までのところ特定の研究課題は設定されていない。昭和62年9月～12月にマレーシアから技師 (technician) C/P Mr. Yapが日本に派遣され、電子顕微鏡の基礎技術に関する研修を受けて帰国した。また昭和63年2月～4月に家畜衛生試験場から小林技官が短期専門家として派遣され、電子顕微鏡技術の指導を行っているが、この技術移転は病理学分野ばかりでなくほかの病原体関係の技術者に対しても行われている。

(2) 課題

- 1) 病理学の専門家がプロジェクトリーダーを兼務しているため、業務調整員と共にマレーシア側との交渉に時間をとられ、研究、技術移転業務に必ずしも十分な時間を割くことができない。
- 2) 電子顕微鏡の操作技術は導入されたが、その結果を読み取る専門家の派遣が必要。

(3) 今後の計画

- 1) これまで習得した基礎技術をもとに、本年度はマレーシア国内の4か所の採卵養鶏場の病鶏及び廃用鶏について病理学的調査を行う。

3-2-4 寄生虫学分野

(1) 研究の進捗状況

昭和62年2月～8月にかけてマレーシアから実験助手C/P Mr. Paramsvaranが派遣され、鶏病支場において鶏ロイコチトゾーン病を中心に研修を受けて帰国した。現在はこのC/Pがマレーシアにおいてロイコチトゾーン病の研究を継続すべく器具機械等を整備中である。昭和63年4月から3か月短期専門家として神奈川県北相家畜保健衛生所から萩原氏が派遣され、ロイコチトゾーン病およびコクシジウム症の技術伝達を行う予定である。

(2) 課題

- 1) 鶏コクシジウム症はマレーシアでも大きな問題となっており、本病に関する技術移転が必要である。
- 2) 寄生虫実験は、VRIの既存のオープン鶏舎を使用して実施する方向ですすめられていたため、現在建設中の実験鶏舎には寄生虫実験用の施設が組み込まれていない。しかし、ほかの鶏 (ロイコチトゾーン病) あるいは人体 (コクシジウム病) への影響を考慮すると、VRIのオープン鶏舎を寄生虫実験に使用することは難しく、早急に対策を検討する必要がある。

ある。

(3) 今後の計画

- 1) マレーシアにおけるロイコチトゾーン病の発生調査、鶏ヌカカの実験室内飼育などが計画されている。
- 2) コクシジウム症の技術習得のためにC/Pの日本派遣を希望している。
- 3) コクシジウム症を中心とした実験が可能な鶏舎の確保（新設もしくは既存施設の改修）を検討する。

3-2-5 疫学分野

(1) 研究の進捗状況

昭和62年9月～12月短期専門家として阿部氏が派遣され、鶏疾病の野外調査および指導を行った。とくに、各種疾病の抗体調査、ニューカッスル病ワクチンの種類と使用方法に関する調査により貴重なデータを入手できた。しかし、マレーシア側C/Pにはまだこれらの情報の分析技術が不足し、十分に利用されずにいる。

(2) 課題

- 1) 疫学分野は、他の分野と密接な連携のうえに研究を進める必要がある。その具体的な方策は今後の課題である。
- 2) マレーシア側C/Pは有意差検定(カイ2乗, F, 分散分析)なども応用困難であり、初歩的な統計解析の知識から指導する必要がある。

(3) 今後の計画

- 1) 他の部門との協同でマレーシア国内4か所の採卵養鶏場における疾病発生状況を調査する。
- 2) 野外調査結果をもとにマレーシア国内の家禽疾病の実態を明確にし、各研究分野に対し、研究課題の方向性を示唆できるレベルにまで疫学分野を高める。
- 3) 統計分析等を研修のためC/Pを日本に派遣するか、この分野の専門家を派遣する。

3-2-6 SPF鶏舎関係

(1) 工事の進捗状況

現在第二期工事として1988年7月18日を竣工目標に進行中である。竣工後19日から同月30日までに器具機械を設置し、8月1日から20日までを試運転調整期間と予定している。その後、同月30日迄の間に清掃、ホルマリン消毒を行う。実際の鶏舎の運転は9月からとなり、SPF卵のふ卵開始は9月第二週となる。

鶏舎内壁面はコンクリートとし、消毒、洗浄等により剝離することを懸念し表面の塗装等はしないとのことである。

SPF鶏舎の運営はセンター所長が直轄し、VA (VETERINARY ASSISTANT) を1名配置する。

(2) 課題

- 1) 1988年7月18日からの器具機械設置、および8月1日から20日までの試運転調整期間にSPF専門家の指導が必要であり、同分野の専門家の派遣を検討する。
- 2) 9月以降SPF卵の継続的な入手が必要となっているが、入手源、入手方法について早急に検討する必要がある。
- 3) SPF鶏の検定に必要な抗原等の確保、検定業務実施者の決定と技術指導について検討が必要。
- 4) 鶏舎内壁面が裸のコンクリートであるため当分の間は粉塵が多く発生することが予想される。したがって、フィルターは頻繁に交換が必要であるが、マレーシア側の予算措置は未だ十分に検討されていない。
- 5) SPF鶏に使用する飼料原料の入手源、入手方法、飼料の調製技術移転については検討されていない。早急に対応する必要がある。
- 6) SPF鶏に使用する飲水の水質検査および衛生検査をおこなう。
- 7) 鶏舎の器具機材、設備等は精密複雑であり、生きた鶏及び卵を収納しているために停電等事故発生時に早急に修復の必要がある。そのために専任の電気技師等の雇用を考慮するなどの対応策を検討する必要がある。

3-2-7 実験鶏舎関係

(1) 工事の進捗状況

SPF鶏舎と同様に1988年7月18日を竣工目標に工事が進められている。竣工後の調整期間もSPF鶏舎と同様に予定されている。

アイソレーターへの設置には日本から専門家が派遣される予定である。

実験鶏舎の運営管理はウイルス分野が担当しVAが1名配置される。

(2) 課題

SPF鶏舎における問題点と同様であるが、(1)アイソレーターの調整と運転にはより長期の技術研修が必要である。(2)寄生虫実験をどのように実施するか。(3)各研究分野の使用方法的調整、などの検討が必要である。

3-2-8 第三国研修関係

第三国研修は1988年3月6日から17日まで新設の研究訓練センターにおいて開催された。本年は第一回の企画として「鶏病とその防除にかんするアセアンセミナー」の課題のもとにアセアン各国から25名の研修生を集めて行われた。調査団は3月15日からこのセミナーに参加した。

また、日本からの講師として鶏病支場の川村支場長がセミナーの最初から参加し、「日本における家禽疾病の現状と防疫」について、また、国安調査団長が「日本における鶏病研究の現状と問題点」についてそれぞれ講演を行った。今回の調査でこの第三国研修については以下のような問題点を挙げる事ができる。

- 1) 研究訓練センターのマレーシア側のスタッフは講義、実習とも現在のところ第三国研修を十分行えるレベルにまで達していない。とくに実習面のレベルアップが早急に必要である。
- 2) 今回の第三国研修の企画運営はセンター所長のみがあたり、センター全体としての取り組みが必ずしも十分とは言えなかった。

第三国研修は、当センターがアセアンセンターとして存立するために大切な事業の一つであり、今後は、ある程度軌道に乗るまで、日本人専門家及びJICAマレーシア事務所のより一層の支援が必要になると思われる。

- 3) 今回のセミナーの目的の一つとして、今後の第三国研修のあり方や運営についてアセアン各国の上層部が集まって討議し、方向づけを行うことも加えられていた。しかし各国の十分な理解が得られなかったことなどから、参加者の地位、能力、業務内容等にばらつきがあり過ぎ、目的を十分に果たすことはできなかった。

4. 合同委員会の協議事項

4-1 経緯

今回、調査団は調査日程の前半、現地の活動状況を視察するとともに、現地専門家との意見交換および数度にわたりワーキンググループとの協議をかさね、現場関係者と委員会協議内容の事前打合せを行った上で3月23日の合同委員会に臨んだ。会議後、同委員会議事録を作成、同日日本側チームリーダーとマレーシア側農業省次官補との間で署名が取り交わされた。

4-2 概要

- (1) センター建設の進捗状況および過去1年間の研究活動の進捗状況、第3国研修第1回アセアンセミナーの結果についてDr. Gan (マ側プロジェクトコーディネーター) から報告がなされた。
- (2) 調査団とワーキンググループによって事前に作成された修正暫定実施計画の内容が日本人派遣専門家より報告され承認された。主な内容は以下のとおりである。
 - 1) Annex Bのとおりプロジェクト第3年次における各分野の研究課題を決定した。

- 2) 長期専門家に関しては現在派遣中である3名の専門家各担当分野に対する継続的派遣の他、ウイルス学について活動分野が重複することからさらに1名分の専門家枠を増やし対応する。
- 3) 短期専門家に関して第3年次は寄生虫学2名、細菌学2名、疫学1名、アイソレーター据付1名、SPF鶏舎運営専門家2名を派遣する。
- 4) 機材供与に関して第3年次の予算は約6,000万円とする。
- 5) 研修員受入れに関して第3年次は獣医局長の他2名のC/Pを研修員として受入れる。
- 6) マレーシア側スタッフの配置に関し、プロジェクトの円滑な運営と目的達成の為、十分な人材の配置をマレーシア側が行う。
- 7) 1988年度は、センター運営に十分なマ側予算が確保されている旨報告があった。
- 8) その他

1988年2月、シンガポールで開催されたアセアン食糧農業委員会(COFAF)畜産部会において各国獣医局長から、家禽病研究訓練センターにおいて、畜産部会の開催を企画するようマレーシア関係者に要請があった。合同委員会としてはそのような企画はプロジェクトの運営にも裨益するものであることと確認した。

附 属 資 料

1. 第2回合同委員会議事録

The Minutes of the Second Joint-Committee Meeting for
the ASEAN Poultry Disease Research and Training Project17

2. アセアン家禽病研究訓練センター機構図.....32

3. 第1回アセアン家禽病セミナー (ASEAN Seminar on Poultry

Diseases and Their Control) 関係資料35

附屬資料 1. 第 2 回合同委員會議事錄

THE MINUTES
OF
THE SECOND JOINT – COMMITTEE MEETING
FOR
THE ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING PROJECT

KUALA LUMPUR, MALAYSIA

23RD. MARCH, 1988

THE MINUTES
OF
THE SECOND JOINT-COMMITTEE MEETING
FOR
THE ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING PROJECT

KUALA LUMPUR MALAYSIA
23RD MARCH, 1988

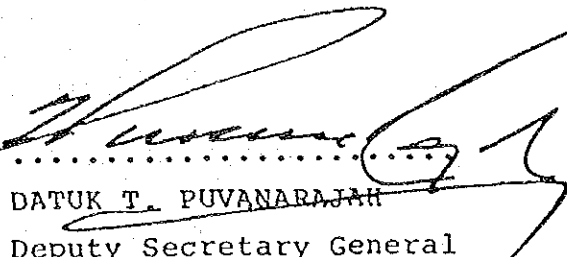
THE MINUTES OF
THE SECOND JOINT COMMITTEE MEETING
FOR
THE ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH
AND TRAINING PROJECT

The second Joint-Committee Meeting for the ASEAN Poultry Disease Research and Training (APDRT) Project was held on the 23rd of March 1988 at the Conference Room, Department of Veterinary Services, Ministry of Agriculture, Kuala Lumpur, Malaysia.

The Meeting discussed and endorsed the Tentative Implementation Programme (TIP) and the Annual Research Proposals. Matters arising from the discussions shall be brought to the attention of the respective Governments.

勝屋茂實

.....
DR. SHEGEMI SHOYA
Leader
JICA Expert Team
APDRT Project


.....
DATUK T. PUVANARAJAH
Deputy Secretary General
Ministry of Agriculture
Malaysia

Witnessed by

岡本正徳

.....
DR. CHIKARA KUNIYASU
Leader
JICA Technical Guidance
Team for APDRT Project

Witnessed by

Kardin HJ.

.....
DATO' (DR.) HJ. KARDIN HJ. SHUKOR
Assistant Director General
Department of Veterinary Services
Ministry of Agriculture
Malaysia.

MINUTES OF THE SECOND JOINT COMMITTEE MEETING

Date: 23rd March 1988
Time: 9.00 am
Venue: Conference Room, Department of Veterinary Services
Ministry of Agriculture
Kuala Lumpur
Malaysia

ATTENDANCE

1. Chairman:

Datuk T. Puvanarajah Deputy Secretary General
Ministry of Agriculture
Malaysia

2. Members:

(i) MALAYSIA SIDE:

Dato (Dr) Hj. Kardin Asstant Director General
Hj. Shukor Department of Veterinary
Services
Ministry of Agriculture
Malaysia

Dr Abdul Rahman Mohd Director
Salleh Veterinary Research Institute
Ministry of Agriculture
Malaysia

Dr. Gan Chee Hiong
APDRT Malaysian Project-
Coordinator
Veterinary Research Institute
Ministry of Agriculture
Malaysia

Mrs. Wan Norma Wan
Daud
Assistant Director
Economic Planning Unit
Prime Minister's Department
Malaysia

(ii) ASEAN SIDE:

Dato' (Dr.) Hj. Kardin
Hj. Shukor
Member
ASEAN-COFAF Coordinating
Group on Livestock

(iii) JAPANESE SIDE:

Dr. Shimegi Shoya
Leader
JICA Expert Team
APDRT Project

Mr. Takahisa Kusano
Coordinator
JICA Expert Team
APDRT Project

Dr. Masaya Sakata
Long-term Virologist
JICA Expert Team
APDRT Project

Mr. Masaru Kobayashi
Short-Term Electron
Microscopist
JICA Expert Team
APDRT Project

Dr. Chikara Kuniyasu
Leader
JICA Technical Guidance
Team for APDRT Project

Dr. Junichi Sekiya Member
JICA Technical Guidance
Team for APDRT Project

Dr. Kunitoshi Imai Member
JICA Technical Guidance
Team for APDRT Project

Dr. Yujiro Ishii Member
JICA Technical Guidance
Team for APDRT Project

Mr. Takao Matsuzaki Resident Representative
JICA Malaysia Office

3. Observers:

Mr. Takeshi Goto Second Secretary
Embassy of Japan

Mr. Than Tai Hing Principal Assistant Secretary
Ministry of Foreign Affairs
ASEAN-Malaysia
Wisma Putra
Malaysia

Mr. K. Ilango Ministry of Foreign Affairs
ASEAN-Malaysia
Wisma Putra
Malaysia

Mr. Shahril Hassan Department of Public Services
Prime Minister's Department
Malaysia

Mr. Mohd Yassin Salleh Ministry of Agriculture
Malaysia

Mr. Abdul Ghaffar A.
Tambi

Ministry of Agriculture
Malaysia

Mr. Yahya Muhamad

Department of Veterinary
Services
Ministry of Agriculture
Malaysia

Dr. Wan Ahmad Hj Wan
Latiff

Department of Veterinary
Services
Ministry of Agriculture
Malaysia

1. OPENING

The Chairman announced the opening of the Second Joint-Committee Meeting and welcomed all the delegates to the Meeting.

2. PROJECT REVIEW AND PROGRESS REPORT

A review and progress report of the ASEAN Poultry Disease Research and Training (APDRT) Project was presented to the Meeting. The progress of the construction of the APDRT Centre under the grant aid project was also briefly highlighted. Phase I, which consists of the main research and training building, and an international hostel has been completed and handed over to the government of Malaysia on 18th January 1988.

Phase II, which is made up of the SPF Unit, Experimental Chicken House and Feed Mill would be ready by July this year.

Technical cooperation activities in the past one year were also reported to the Meeting.

With the completion of Phase I, the meeting was briefed that the first ASEAN Seminar on Poultry Diseases and Their Control was held from 8th to 18th March, 1988. There were 25 ASEAN participants which include 11 personnel from outside Malaysia. The Joint-Committee took note that the Working Group of the Project will study the recommendations made during the seminar and plan accordingly the future courses.

3. REPORT OF THE STEERING COMMITTEE

Following the discussion between the JICA Technical Guidance Team and the Working Groups on 18th and 19th March 1988 in Ipoh, the Steering Committee met to revise the Tentative Implementation Programme (TIP) on 22nd March, 1988. The revised TIP (Annex A) was presented to the Joint-Committee Meeting for endorsement.

4. TENTATIVE IMPLEMENTATION PROGRAMME

4.1 Research Activities

The annual research proposals for the third project year as agreed by the meeting were presented as Annex B.

4.2 Despatch of Japanese Experts

Two long-term experts and the project coordinator have been despatched since August 1986. Four short-term experts have been despatched since 1987.

It was proposed and agreed that the schedule of Japanese expert despatch for the third project year be as follows:

a. Long term experts

With the completion of the services of the existing 3 long-term experts, the Meeting took note that necessary action will be taken to request for their extension or replacement in the current year. The Meeting also agreed that an additional long-term expert in virology will be despatched.

b. Short-term experts

For the short-term experts, 2 bacteriologists, 2 parasitologists, 1 epidemiologist, 1 isolator-equipment specialist and 2 SPF Poultry specialists will be despatched during the third project year.

4.3 Provision of equipment

The meeting was informed that the basic equipment required for research activities have been provided under the Grant Aid and the Technical Cooperation Programme.

The equipment provided under the Technical Cooperation Programme were valued at Yen 15 million and Yen 121 million for the first and second project years, respectively. For the third year of the project, it was estimated that about Yen 60 million will be allocated for the purchase of equipment.

4.4 Training of Malaysian Personnel in Japan

A total of 2 research officers, 3 laboratory assistants have received and 1 veterinary assistant has been receiving the trainings in Japan.

For the third project year, the Meeting had agreed that one study tour will be arranged for the Director-General of Veterinary Services, Malaysia, and two counterpart-training places will be given to the research officers in parasitology and pathology.

4.5 Assignment of Malaysian Staff

The current need for the staff assignment for the Centre is shown in its Organisational Chart (Annex C) which was proposed by the Working Group.

The Meeting urged that in order to operate the Centre smoothly as well as to realise the objectives of the Project, Malaysia would take the necessary steps to ensure that appropriate and adequate staff are assigned to the Centre.

4.6 Running Cost

The Meeting was informed that adequate budget is allotted to cover for the operation needs of the Centre for 1988.

5. OTHER MATTERS

The Meeting was informed that at the Eleventh Meeting of the ASEAN-COFAF Coordinating Group on Livestock (CGL), which was held in Singapore on 3rd to 5th February, 1988, the ASEAN Director Generals had requested Malaysia to convene a meeting at the Centre in Ipoh, in order to provide opportunities to the CGL members to discuss the necessary inputs on the future research and training programmes.

The Joint-Committee was of the opinion that such a meeting of the ASEAN Director Generals would be beneficial to the Centre.

ASEAN Poultry Disease Research and Training Project

TENTATIVE IMPLEMENTATION PROGRAMME

Item	Year	1st year 1986/87	2nd year 1987/88	3rd year 1988/89	4th year 1989/90	5th year 1990/91
(Technical Cooperation Period)		17/4/86 16/4/91				
I. PROJECT ACTIVITIES ON POULTRY DISEASE						
1. Research Activities						
(1) Etiological and Pathological Research on Poultry Diseases		←-----→				
1) Viral diseases		←-----→				
2) Bacterial disease		←-----→				
3) Protozoa Infection		←-----→				
(2) Development and Application of Diagnostic Methods for Poultry Diseases		←-----→				
1) Methods for isolation and identification of avian pathogens		←-----→				
2) Fluorescent antibody technique		←-----→				
3) ELISA techniques for the diagnosis of avian diseases		←-----→				
4) Other serological methods		←-----→				
(3) Development of Poultry Vaccine		←-----→				
1) Inactivated and Live ND Vaccines		←-----→				
2) IB Vaccines		←-----→				
3) Combined Vaccines		←-----→				
4) Other Vaccines		←-----→				
5) Efficacy Tests		←-----→				
(4) Investigation and Reference Activities of Poultry Diseases		←-----→				
1) Epidemiological Study		←-----→				
2) Reference Activities		←-----→				
(5) Establishment of Specific-Pathogen-Free Chicken Unit		←-----→				
(6) Other Research Activities		←-----→				

Item	Year	1st year 1986/87	2nd year 1987/88	3rd year 1988/89	4th year 1989/90	5th year 1990/91
2	Training Activities for Personnel Engaged in Veterinary Research and Services in the ASEAN Countries					
	(1) Seminars on Poultry Diseases for Senior Veterinarians, Scientists		↔	-	-	-
	(2) Courses on Basic Diagnostic Techniques of Poultry Diseases for Junior Veterinarians, Scientists and Senior Technical Officers			—		—
	(3) Courses on Specialized Diagnostic and Research Technique on Poultry Disease for Veterinarians, Scientists and Senior Technical Officers				-	

Note 1 The Third-Country Training Programme for the above-mentioned training activities will be specified by its Record of Discussions.

Note 2 Relating to research activities of poultry disease, other programme for training and seminars will be organized by the Government of Malaysia and FAO-APHCA.

Item	Year	1st year 1986/87	2nd year 1987/88	3rd year 1988/89	4th year 1989/90	5th year 1990/91
II. JAPANESE CONTRIBUTION						
1. Dispatch of Experts						
(1) Team Leader		←————→				
(2) Coordinator		←————→				
(3) Long-term Experts						
Virology		←————→		←————→		
Bacteriology				←————→		
Parasitology				←————→		
Pathology		←————→				
Epidemiology						
(4) Short-term Experts						
Virology		←				
Bacteriology			←→			
Parasitology				←→		
Pathology				←→		
Epidemiology			←→			
Others			←→			
2. Training of Malaysian Personnel In Japan						
Virology		←————→				
Bacteriology		←————→	←————→			
Parasitology		←————→				
Pathology		←————→				
Epidemiology						
Others						
3. Provision of Equipment						
		Y15M	Y121M	Y60M		
4. Third-Country Training Programme						
5. Dispatch of Missions						
		Consulta- tion	Guidance	Guidance	Guidance	Evalua- tion

Item	Year	1st year 1986/87	2nd year 1987/88	3rd year 1988/89	4th year 1989/90	5th year 1990/91
III. MALAYSIAN CONTRIBUTION						
1. Counterparts & Administrative Personnel						
1) Project Manager						
2) Research Officers						
Virology						
Bacteriology						
Parasitology						
Pathology						
Epidemiology						
3) Technical Staff						
SPF Chicken Unit						
Experimental Chicken House						
4) Laboratory Assistants						
Virology						
Bacteriology						
Parasitology						
Pathology						
Epidemiology						
Electron Microscopy						
4) Administrative Personnel						
Clerks						
Drivers						
Labourers						
2. Land, Building and Facilities						
3. Running Cost						
4. Others						

Note . The main building and facilities of the Centre are being constructed by the Japanese Grant-Aid Programme

(i)

Annex B

ANNUAL RESEARCH PROPOSAL FOR THE THIRD PROJECT YEAR (APRIL
1988 - MARCH 1989)

1. Pathology

. Etiology of diseases of laying hens in 4 commercial farms:

- (a) Survey of 4 flocks during their laying period from 18-60 weeks.
- (b) Histopathological and microbiological examinations.

2. Parasitology

. Study on the prevalence and incidence on coccidiosis in layer and broiler farms:

- (a) Establish base-line data on coccidiosis.
- (b) Identify important species of coccidia (Eimeria).
- (c) Study economic losses due to coccidiosis.
- (d) Study on possibility of vaccine development.

. Establish a vector colony of Culicoides arakawa for work in transmission studies on leucocytozoon infection.

(ii)

3. Bacteriology

. Study on Infectious Coryza:

- (a) Evaluation of media suitability for H. paragallinarum,
- (b) Isolation and serotyping procedures.
- (c) Study on immune response to vaccination.
- (d) Maintenance of stock culture.
- (e) Monitoring of the SPF flock to assure their freedom from bacterial infection.

4. Virology

. Development and application of diagnostic methods:

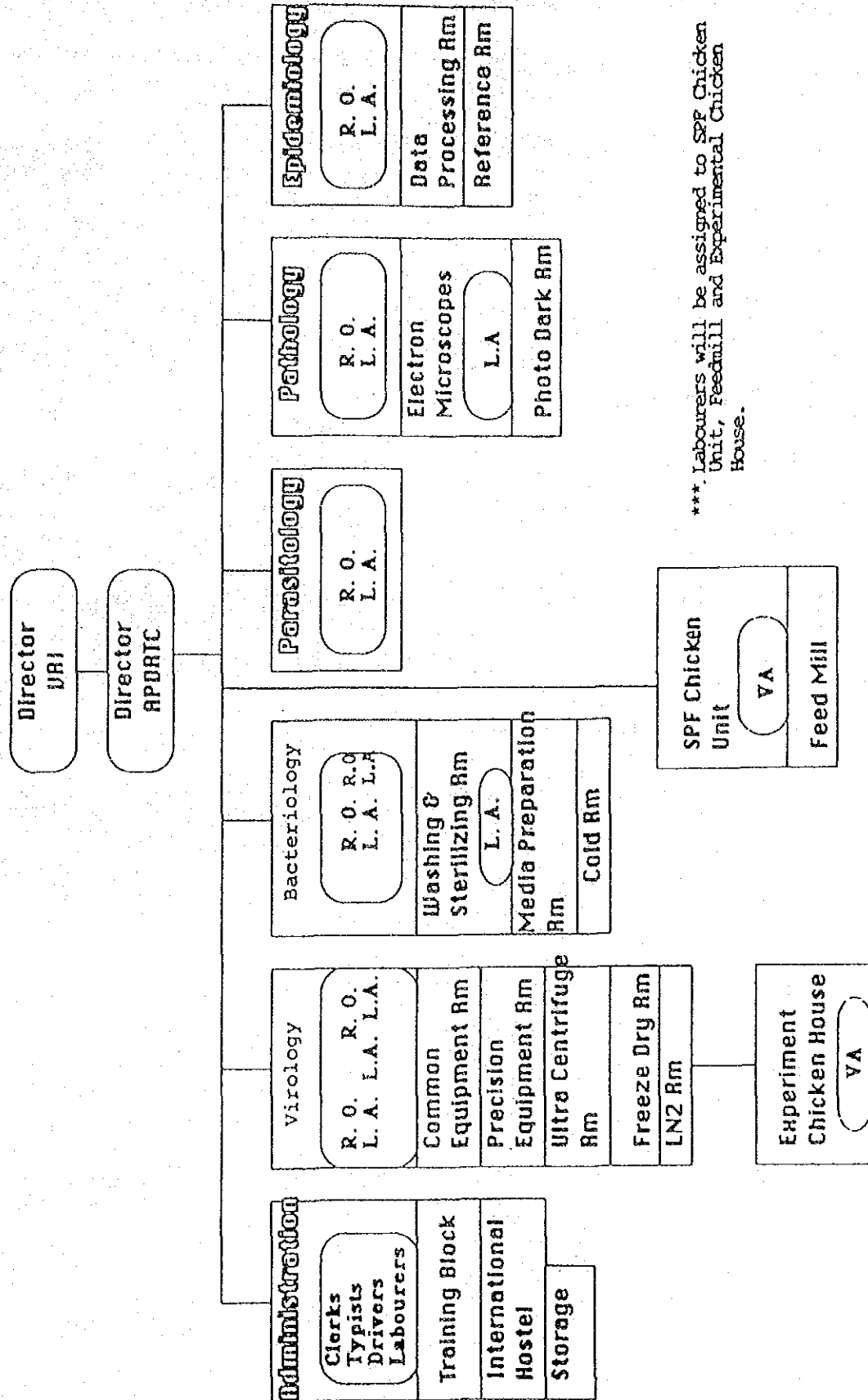
- (a) ELISA antigen preparation
- (b) Establishment of ELISA methods to detect poultry viral diseases such as IB, Marek's, AL and others.
- (c) Comparative studies with other tests and also ELISA tests to be developed for use in SPF flock monitoring.

. Vaccine trials

. Surveys on IBD and EDS.

ASERN Poultry Disease Research and Training Centre
ORGANIZATIONAL CHART

Annex C



ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTER
ORGANIZATIONAL CHART

DIRECTOR VRI: DR. ABDUL RAHMAN BIN MHD, SALLEH

DIRECTOR APDRTC: DR. GAN CHEE HIONG

- ADMINISTRATION (CLERKS, TYPISTS, DRIVERS, LABOURERS)
 - TRAINING BLOCK
 - INTERNATIONAL HOSTEL
 - STORAGE
- VIROLOGY (RO:DR. CHAI, RO:MR. LIM, LA:CIK ZABEDAH, LA: , LA:)
 - COMMON EQUIPMENT RM EXPERIMENT CHICKEN HOUSE(VA:)
 - PRECISION EQUIPMENT RM
 - ULTRA CENTRIFUGE RM
 - FREEZE DRY RM
 - LN2 RM
- BACTERIOLOGY (RO:MRS. ZAINI, RO: , LA:SITT ZALEHA)
 - WASHING & STERILIZING RM(LA:)
 - MEDIA PREPARATION RM
 - COLD ROOM
- PARASITOLOGY (RO:DR. RAHMAT, LA:MR. PARAM)
- PATHOLOGY (RO:DR. MAHANI, LA:ZURAI DAH)
 - ELECTRON MICROSCOPES(EO:MR. YAP)
 - PHOTO DARK RM
- EPIDEMIOLOGY (RO:DR. AZIZ, LA:MRS. TAN)
 - DATA PROCESSING RM
 - REFERENCE RM
- SPF CHICKEN UNIT (VA:MR. LIP)
 - FEED MILL

附属資料3. 第1回アセアン家禽病セミナー

3-1 プログラム



ASEAN SEMINAR ON POULTRY DISEASES
AND THEIR CONTROL

8th - 18th March, 1988

SEMINAR PROGRAMME

Sponsored by

THE GOVERNMENT OF MALAYSIA
WITH THE TECHNICAL COOPERATION
OF THE GOVERNMENT OF JAPAN

SEMINAR PROGRAMME

- 8th March - Tuesday
- Arrival of Participants and Registration at International Hostel, APDRTC
- 9th March - Wednesday
- 10.00 am - Opening Ceremony by the Honourable Deputy Minister of Agriculture
Encik Mohd Kassim bin Ahmed
- 10.45 am - Tour of APDRTC and VRI
- 12.15 pm - Lunch
- 2.00 pm - Organisation and Function of DVS, Malaysia
- 3.00 pm - Japanese Technical Cooperation at APDRTC
- 4.00 pm - Tea
- 8.00 pm - Dinner hosted by the Director-General of Veterinary Services

COUNTRY REPORTS

- 10th March - Thursday
- 8.15 am - Negara Brunei Darussalam
- 9.15 am - Indonesia
- 10.15 am - Tea
- 10.45 am - Malaysia
- 11.45 am - Philippines
- 12.45 pm - Lunch
- 2.00 pm - Singapore
- 3.00 pm - Thailand
- 4.15 pm - Tea

FIELD TRIP

- 11th March- Friday
- 8.00 am - Departure for Penang by bus
 - 11.00 am - Arrival at Regional Veterinary Diagnostic Laboratory, Bukit Tengah, Province Wellesley
 - 12.30 pm - Lunch hosted by Federal Flour Mill
 - PM - Visit to Federal Flour Feedmill. Staying at Ferringhi Beach Hotel, Penang
- 12th March- Saturday
- AM - Visit to Sin Long Heng Poultry Farm
Lunch hosted by Sin Long Heng
 - PM - Visit to broiler farm
Staying at Ferringhi Beach Hotel, Penang
- 13th March- Sunday
- AM - Visit to Layer Farm and tour round Penang Island
 - PM - Return to Ipoh
- 14th March- Monday - Free Day
- 15th March- Tuesday
- AM - Lecture by Dr. Hitoshi Kawamura
 - 1. Status and control of chicken diseases in Japan
 - 2. Recent progress research on chicken diseases in Japan
 - Lecture by invited speaker
 - Lecture by VRI official
 - Night - Dinner sponsored by JICA Expert Team

SCIENTIFIC SESSION

16th March- Wednesday

8.15 - 10.15 am - Session I
10.15 - 10.45 am - Tea
10.45 - 12.45 pm - Session II
LUNCH
2.00 - 4.00 pm - Session III

17th March- Thursday

8.15 - 10.15 am - Session IV
10.15 - 10.45 am - Tea
10.45 - 12.45 pm - Session V
LUNCH
2.00 - 4.00 pm - Evaluation and Discussion
8.00 pm - Closing Ceremony-cum-Dinner

18th March- Friday

- Departure for Home

LIST OF PARTICIPANTS

1. Brunei Darussalam

a. Mr. Dabeding Hj. Dullah

2. Indonesia

- a. Dr (Mrs) Gesit Tjohyawati
- b. Ms Yusni Esilia
- c. Ms Endhang Pudjiastuti Hariadi

3. Malaysia

- a. Dr Ong Bee Lee
- b. Dr Mohd Mokhtar bin Arshad
- c. Dr Ungku Chulan Mohsin
- d. Dr Azri Adzhar
- e. Dr Rafidah Jamaludin
- f. Dr Murugaiyah
- g. Dr Johari bin Mingan
- h. Dr P. Supramaniam
- i. Dr P. Govindasamy
- j. Dr Nasip Eli
- k. Dr Tan Seong Lim
- l. Dr Chia Pek Chin
- m. Mr Lim Kean Teik
- n. Dr Chai Kim Kheong
- o. Dr Mahani Abd Hamid

4. Philippines

- a. Dr Edmond S. Beltran
- b. Dr Carolyn Anne Lucio Ganda
- c. Dr Annabelle Urbano Pili

5. Singapore

a. Dr Ng Fook Keong

6. Thailand

- a. Mrs Vorapee Suwatanaviroj
- b. Mrs Nantana Tohnak
- c. Mrs Nitaya Dilockiat

ORGANISING COMMITTEE

Advisor : Dr Abdul Rahman Mohd. Salleh

Chairman : Dr Gan Chee Hiong

Secretary : Dr Rahmat Sheriff

Committee Members : Dr Chal Kim Kheong

Dr Mahani Abd Hamid

Mr Yap Hon Choong

Cik Siti Zaleha Abu Talib

Mr Paramasvaran

Mrs Loo Hock Kin

ACKNOWLEDGEMENT

The Organising Committee wishes to express its gratitude and thanks to the following authorities for their cooperation, support and guidance in making this seminar possible:

Wisma Putra

Director General
Department of Veterinary Services

Japan International Cooperation Agency (JICA)

Director
Veterinary Research Institute, Ipoh



写真1 開講式

松崎所長、農業副大臣、獣医局長

附属資料 3-2. セミナー参加者リスト

LIST OF PARTICIPANTS & ADDRESSES

1. Brunei Darussalam

- a. Mr. Dabeding Hj. Dullah
Livestock Non ruminant Unit,
Department of Agriculture,
MINISTRY OF DEVELOPMENT,
Bandar Seri Begawan.

2. Indonesia

- a. Drh. (Mrs) Gesit Tjahjowati
DIC Region IV
(B.P.P.H : Balai Penyelidikan Penyakit Haiwan Wil. IV)
Jln. Raya Yogya Wates. KM 27
P.O. Box 18 YOGYAKARTA.
- b. Ir. Yusni Emilia
Livestock & Fisheries Cooperation in ASEAN
Ministry of Agriculture,
Jln. Harsono DM No. 3 Pasar Minggu
Jakarta.
- c. Drh. Endang Pudjiastuti Hariadi
Pusat Veterinaria Farma
Jln. A. Yani 6B-70
Surabaya 60231

3. Malaysia

- a. Dr. Ong Bee Lee
Makmal Diagnosa Veterinar Kuantan
d/a Jabatan Haiwan Negeri Pahang
Jalan Terkukor
25000 Kuantan
- b. Dr. Mohd. Mokhtar bin Arshad
Makmal Diagnosa Veterinar Kota Bharu
Jabatan Haiwan Negeri Kelantan
Kubang Kerian
16150 Kota Bharu
- c. Dr. Azri Adzhar
Makmal Diagnosa Veterinar
Jabatan Haiwan Persiaran Barat
46630 Petaling Jaya

- d. Dr. Rafidah Jamaluddin
Makmal Diagnosa Veterinar
Jabatan Haiwan Negeri
Jln. Kebun Teh
80250 Johor Bahru
- e. Dr. Johari bin Mingan
(Unit Ayam), Ibu Pejabat Perkhidmatan Haiwan
Kementerian Pertanian Malaysia
Jalan Mahameru
50630 Kuala Lumpur
- f. Dr. P. Supramaniam
Pusat Pembiakan Ayam
Komplek Haiwan Bukit Tengah
Peti Surat 77
14007 Bukit Mertajam
- g. Dr. P. Govindasamy
Institut Kemajuan Ternakan Ayam
Peti Surat 141
80710 Johor Bahru
- h. Dr. Nasip Eli
Dept. of Vet. Services & Animal Industry
Peti Surat 51
89157 Kota Belud
Sabah
- i. Dr. Tan Seong Lim
Makmal Diagnosa Veterinar Bukit Tengah
Peti Surat 63
14007 Bukit Mertajam
- j. Dr. Murugaiyah. M. Bahagian Ternakan MARDI
Peti Surat 12301
Pejabat Pos Besar
50774 Kuala Lumpur
- k. Dr. Chia Pek Chin
Sekama Veterinary Clinic
P.O. Box 1395
93728 Kuching
Sarawak
- l. Mr. Lim Kean Teik
Institut Penyelidikan Haiwan
59, Lorong Harimau
31400 Ipoh
Perak

m. Dr. Chai Kim Kheong
Institut Penyelidikan Haiwan
59, Lorong Harimau
31400 Ipoh
Perak

n. Dr. Mahani Abd. Hamid
Institut Penyelidikan Haiwan
59, Lorong Harimau
31400 Ipoh
Perak

4. Philippines

a. Dr. Edmond S. Beltran
B of AI
Department of Agriculture
BAExt. Bldg, LUPD, Diliman,
Quezon City

b. Dr. Carolyn Anne Lucio Canda
Regulations & Control Division
Bureau of Animal Industry
BAEX Bldg. Elliptical Road
Diliman, Quezon City

c. Dr. Annabelle Urbano Pili
Research Division,
Bureau of Animal Industry
Alabang, Muntinlupa,
Metro Manila # 1702

5. Singapore

a. Dr. Ng Fook Kheong
Primary Production Department
Ponggol Veterinary Centre
Jalan Seranggong Rechil
Singapore 1954

6. Thailand

- a. Dr. Vorapee Suwatanaviroj
Poultry Disease Section
Veterinary Service Division
Department of Livestock Development
Phaya Thai Road
Bangkok 10400
- b. Dr. Nantana Tohnak
The Veterinary Biologics Center, Pakchong
Pakchong District
Nakorurajsrima Province
30130 Thai
- c. Dr. Nitaya Dilockiat
Poultry Disease Section
Veterinary Service Division
Department of Livestock Development
Phaya Thai Road
Bangkok 10400

ASEAN SEMINAR ON POULTRY DISEASES AND THEIR CONTROL

6TH -- 17TH MARCH, 1988

ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTRE VETERINARY RESEARCH INSTITUTE

IPOH, MALAYSIA.

March 17, 88

Proposals for Future Courses

- I. Recommendations on ASEAN Seminar on Diseases and their Control
 1. More emphasis and prominence be given to keynote lectures.
 2. Keynote lectures to be delivered by internationally recognised researchers in their respective fields of expertise focussing on important diseases in ASEAN and emerging diseases.
 3. Such lecturers should not be restricted to Japan, UPM and APDRTC researchers.
 4. Seminar should include panel discussions and mini-workshops involving keynote lecturers and participants.
 5. There should be no age limit on participants.
 6. Minimum eligibility of participants should be 2 years experience in the field of poultry diseases.

II. Proposals for ASEAN Course in Basic Diagnostic Techniques on Poultry Diseases

1. In addition to the listed training program covering basic training in Bact., Para., Path., and Viro., we propose the following
 - A. as an option to the course, participants may select basic training in not more than 2 specific disciplines. Training should emphasise on new improved techniques
2. The number of participants per course should be increased to 2 per country
3. For optional training in 1. above participants should indicate in their applications the specific disciplines they would like to undertake for training.
4. Training course should be available to technical officers.

III. Proposals for ASEAN Course in Specialised Diagnostic Techniques on Poultry Diseases

In addition to the listed training program, we propose the following training in

1. Purification of Antigens
2. Preparation of monospecific antisera
3. Prep. of conjugates for ELISA
4. Standardisation of ELISA test using conjugates, antigens and antisera.
5. Prep. of monoclonal antibody
6. Prep. of FA conjugates
7. Rapid diagnostic techniques using FA and ELISA
8. Oil emulsion technology
9. Fermentation technology
10. Genetic engineering
11. Immunoelectrophoresis techniques
12. Identification of disease resistant strains of poultry using tissue typing Ex. HLA

ASEAN SEMINAR ON POULTRY DISEASES AND THEIR CONTROL

6TH — 17TH MARCH, 1988

ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTRE VETERINARY RESEARCH INSTITUTE

IPOH, MALAYSIA.

The course should be extended to 6 weeks.

IV. Other Proposals

1. Review of Training and Research

An annual 1 to 2 day meeting of senior poultry specialists is to be sponsored and held at APDRTC to review courses, recommend future courses and to guide the direction of research and training in accordance to the problems encountered in ASEAN.

2. Scientific Publication of the APDRTC

To start an annual publication for circulation to ASEAN.

3. Exit Tax

Exit tax of certain ASEAN countries is to be included in the PTA.

4. Travelling Arrangements

Travelling expenses from the participants offices to the APDRTC should be fully covered.

JICA